

会 員 元 岡 達 君 を 偲 ぶ

和 田 弘†

会員元岡達君が去る 11 月 11 日に逝去された。いかにも大学教授らしい容姿にもう接することができなくなった。惜しい人を失ったとしか言葉がない。

御葬儀には会長が列席され、弔辞を読まれた。その中で創立以来、編集幹事から理事、国際会議の実施につとめられ、8 月にも組織委員長として VLSI の国際会議を司会されたことなどへの謝辞を述べられた。

ここでは小生なりに君の功績の一端を述べて哀悼の意を表させていただくことにしたい。

君との初対面は定かでないが、学会誌第 1 巻 2 号に掲載されている「コード会の報告」に君の名があるから、少なくとも学会創立の 2 年前から御交誼を願っていたことになる。そしてこの春からのご病気が一旦回復されて、9 月にお目にかかってビールで乾杯したのが最後になってしまった。

御葬儀には海外にいて参列できなかったが、そのとき ECMA の Mr. D. Hekimi と会食をして、君の死を口にしたところ、たちどころに SC3 の会議が君との初対面であったと切り出して、君の死を惜んでくれた。その言葉で想起

すると 1965 年に ISO/TC 97 の総会と SC3 の会議が東京で開催された時のことで、君の立派な態度と発言が彼の印象に残っていたのであろう。その後 SC3、SC2 の主査を担当され、文字認識、文字のコードの標準化に貢献して来られた。

1977 年 TC 97 のシドニーの総会で Open Systems Interconnection (OSI) についての委員会を設けることが決まった。これはアーキテクチャの異なる計算機システム間を接続する課題で、通信網とも関連し、コンピュータのユーザの永らくの念願を一挙に解決する

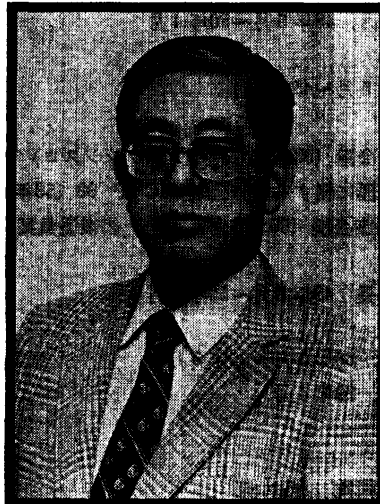
方向への動きであった。情報技術分野での標準化の総合とも目される重要なものなので、君を措いては適格者があるまいと主査に推挙した。この委員会は予想通り仕事量が増え、TC 97 の最大の SC となった。君はその内容について技術的指針を与えるとともに、委員会の管理を含めた難題に熱心に取り組まれ、作業が漸く技術的に最難関にさしかかる状況にまでなっていた。またその基本となる参照モデルは JIS が制定される段階になっていた。

近年になって、第 5 世代コンピュータを始め君の学会を超えての御活躍も盛んであったように御見受けしていた。それらについての業績はそれぞれのところで偲ばれると思われるから、ここでは割愛するが、それに関連して思い出すことがある。君が新婚間もない頃、岳父に当る山下先生から「元岡君が転職を考えている。君からも話をしてみてくれ。」とのお話があった。早速お目にかかって、君の理想とするところを拝聴したことがあった。

近年の御活躍は当時の理想に向ってひた走りとも見受けられた。

ただ「大学を辞めて」だけが違っていた。君の外部への協力はそのエネルギッシュな性格とその理想があっただけで非常に積極的であった。単に肉体的に過労ではあるまいかという以外に、他の世界での活動なので悩みもあろうと拝察していた。一度話し合ってみようかと念じていた矢先に倒れられてしまった。

君の学術的活動の理念から見ると進歩のはげしい分野を担当している学会が、ややマンネリズムに陥っているかに見えて、調和に苦心されたこともあるのではないかと思う。この辺を検討することを君の霊に報告して、追悼の言葉としたい。



† 日本アルゴリズム(株)、情報処理学会名誉会員

御 略 歴

昭和4年4月 東京都生れ

【大学関係】

昭和27年3月 東京大学工学部電気工学科卒業

昭和32年4月 東京大学工学部助教授

昭和33年11月 工学博士

昭和36年8月～38年3月

米国イリノイ大学デジタル計算機研究所客員研究所助教授

昭和42年6月 東京大学工学部教授

昭和43年7月～44年1月 米国ワシントン大学客員教授

昭和60年4月 東京大学大型計算機センター長

【情報処理学会関係】

(役 員)

理事 43年5月～45年4月, 48年5月～50年4月

(編集委員会)

学会誌編集委員長 44年5月～45年4月

(国際関係)

第3回日米コンピュータ会議 (53年10月, サンフランシスコ) プログラム委員長

字種の多い言語の文書処理に関する国際会議: ICTP '83 (58年10月, 東京) 組織委員長

1985年 VLSI/CHDL 国際会議 (60年8月, 東京) 組織委員長

(調査研究)

調査研究運営委員会委員長 49年5月～50年4月

(規格標準)

コード標準化委員会委員 38年5月～40年3月

規格委員会委員 39年4月

【表 彰】

昭和34年度大河内記念技術賞

工作機械の数値制御に関する研究

昭和38年度大河内記念技術賞

工作機械数値制御装置の改良と実用化

昭和40年度全国発明表彰科学技術庁長官賞

パルス分配方式ほか

昭和48年度情報処理学会論文賞

オペレーティング・システムの記述に関する一考察

昭和55年度通商産業大臣賞

電子計算機技術の研究ほか情報処理技術の発展に対する貢献